



Google等との連携強化および オープンアクセス対応方針について

平成26年6月12日

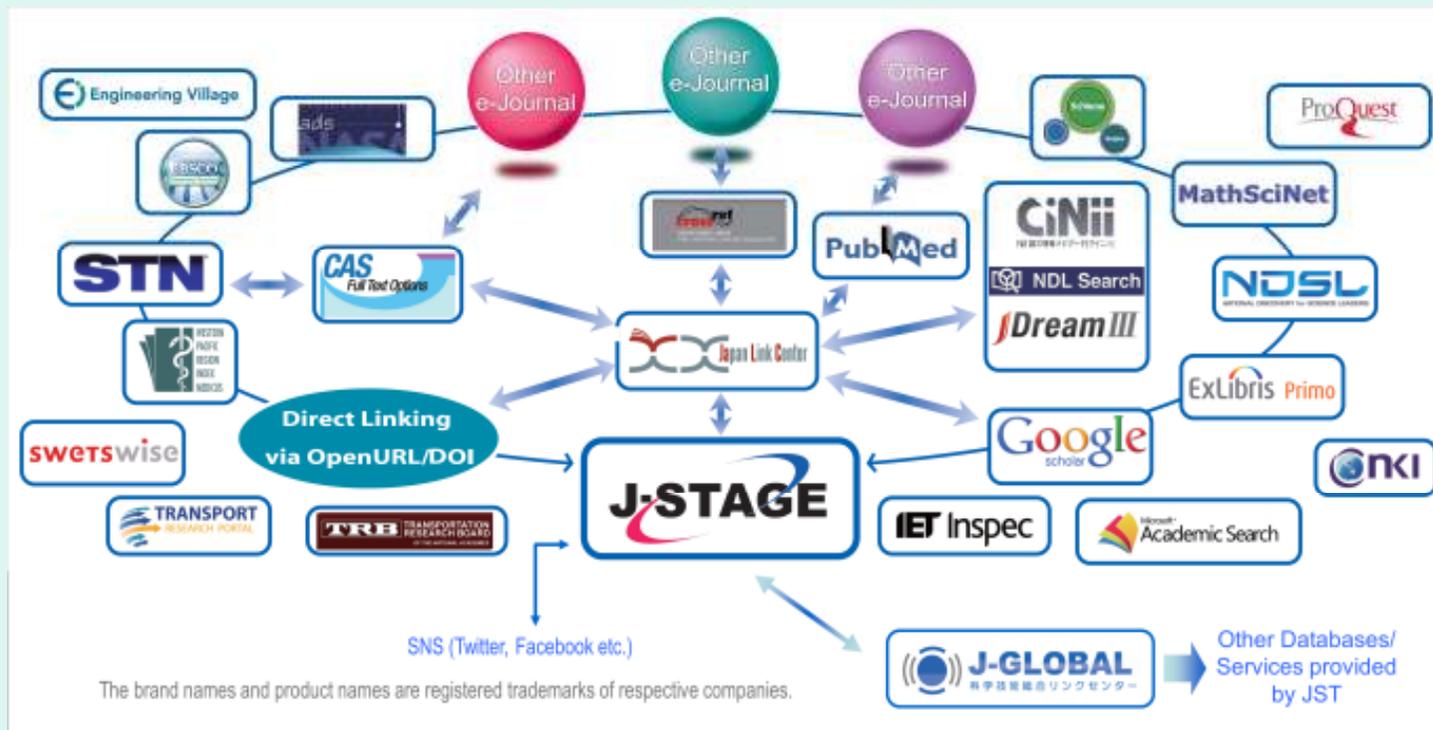
平成26年7月2日

独立行政法人 科学技術振興機構 (JST)

知識基盤情報部

検索エンジン・情報サイトとの緊密な連携の必要性

- J-STAGEコンテンツへのランディングのうち、大半がGoogle等検索エンジンからの流入
- 研究機関・図書館等においては、scopus等文献情報サービスを多用
- 検索エンジン・文献情報サービスでヒットすることは、電子ジャーナルとして最低限の条件であり、必要不可欠





[Google Scholar] インデキシングポリシー

The screenshot shows the Google Scholar website with the following content:

- Navigation: About, Search, Citations, Inclusion, Metrics, Publishers, Libraries, Search Scholar
- Left sidebar: Overview, Indexing Policies, Other Policies, Questions
- Main content:
 - Publisher Support**
 - Indexing Policies**
 - Multiple versions of a work are grouped to improve its ranking**

In many research areas versions of a work may appear as preprints and conference papers before being published as a journal article. These preliminary versions of a work are often cited in addition to the authoritative journal version. The number of citations to a particular work is an important part of determining its rank in the Google Scholar search results. Grouping versions allows us to collect all citations to all versions of a work. In practice, this can significantly improve the position of an article in the search results.
 - Publisher's full-text, if indexed, is the primary version**

When multiple versions of a work are indexed, we select the full and authoritative text from the publisher as the primary version. We can only do this if we are able to successfully identify, crawl and process the full text of the publisher's version.
 - Publishers have control over access to their articles**

We work with publishers to preserve their control over access to their content and only cache articles and papers that don't have access restrictions. Publishers can help us by identifying the regions of their sites that have access restrictions.
 - Google users must see at least the complete abstract or the first full page**

This is a necessary component of our indexing program. For papers with access restrictions, all users clicking on search results must see at least the full author-written abstract or the first full page of the article without requiring to login or click on additional links.

「Google Scholarで検索可能となるための必須要件として、ログインや追加的なリンククリックを行うことなしに、完全な抄録、または1ページめの全体像を表示させる必要がある。」

<http://scholar.google.com/intl/en/scholar/publishers.html#policies>

※ 強調引用者 ©Google



[Google Scholar] GoogleとJ-STAGEの対応(1)

- ※平成25年度J-STAGE利用学協会意見交換会（2014年3月17日(京都)18日(東京))にてご説明
 - J-STAGEは、コンテンツ公開運用を学協会様で実施しており、書誌ページの無償公開は必須であるが、抄録(アブストラクト)の掲載は必須としていない
- ▼
- 結果的に、Google Scholarのインデキシングポリシーに適合しない記事がJ-STAGE内に混在する状況
- ▼
- Google Scholarが、一時J-STAGEサービスをインデックス対象から除外
- ▼
- JST-Google Scholarで協議、J-STAGE側で早急に対策を実施することを条件に、段階的にクローリングを再開

[Google Scholar] GoogleとJ-STAGEの対応(2)

- ※平成25年度J-STAGE利用学協会意見交換会（2014年3月17日(京都)18日(東京))にてご説明
- 今後、抄録のない記事は書誌情報画面に1ページ目画像(first page preview)を表示することで対応いたします
- 7月下旬～8月上旬を目途に作業実施予定
- 作業はJSTで実施（学協会様に行っていただく作業はありません）



区別のつかない粒子たち
— Quantum indistinguishability —
山本 喜久*

1) NIT 物性科学基礎研究部 2) スタンフォード大学応用物理・電気工学科
公開日 2000/01/00

本文PDFプレビュー

符 集

区別のつかない粒子たち—Quantum indistinguishability
新法科学技術推進事業 山本喜子からプロジェクト経費助成者（2007年）
国際共同研究事業「量子もつれ」プロジェクト代表研究員
山本 喜久*

発光に準じた半導体（GaAs）に作成した二次元電子ガスがフェルミ縮退していることを利用して、電子衝突過程の量子干渉効果とアンチポンピング効果の逆相関係を確認した。量子干渉効果は電流雑音（ゆらぎ）から観測し、アンチポンピング効果については量子ドットコンタクトから放出される電子の流の強弱相関により観測した。

1. 研究の背景と目的



[Google Scholar] GoogleとJ-STAGEの対応(3)

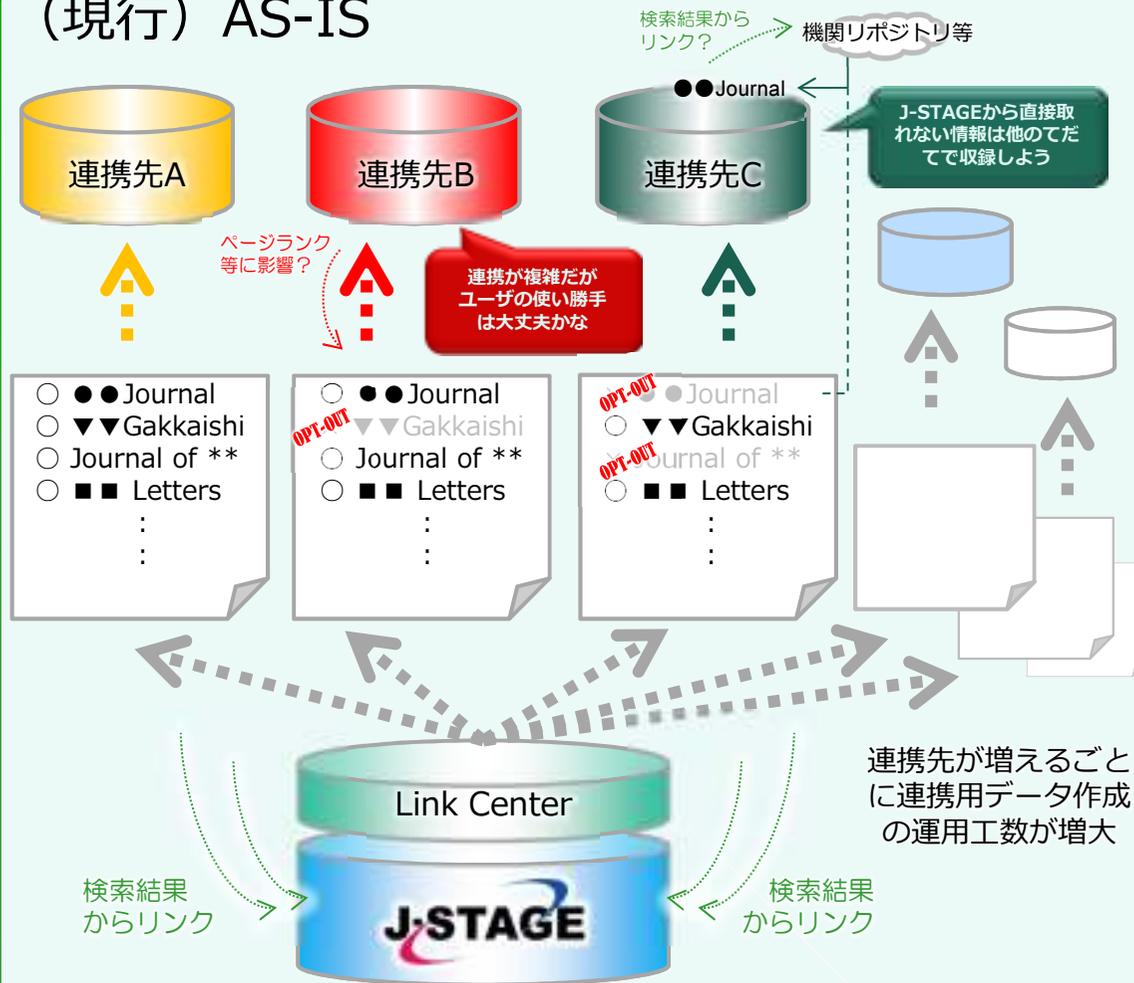
- ※平成25年度J-STAGE利用学協会意見交換会（2014年3月17日(京都)18日(東京))にてご説明
- Google Scholarとしては、原則としてインデキシングポリシーに適合しないコンテンツの混在を許していない（混在している場合、プラットフォーム全体をクロール対象から外す場合がある）
- 「認証コンテンツ」であっても、抄録または1ページめ全体が閲覧可能になっている必要

- First page previewは、認証のあり・なしに関わらず表示されます（ただし、テキストのコピー等はできないイメージ(jpg画像)です）
- 作業はJSTで実施（学協会様に行っていただく作業はありません）

本件につきましては、各学協会様宛に別途文書にてご案内を差し上げます。
皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

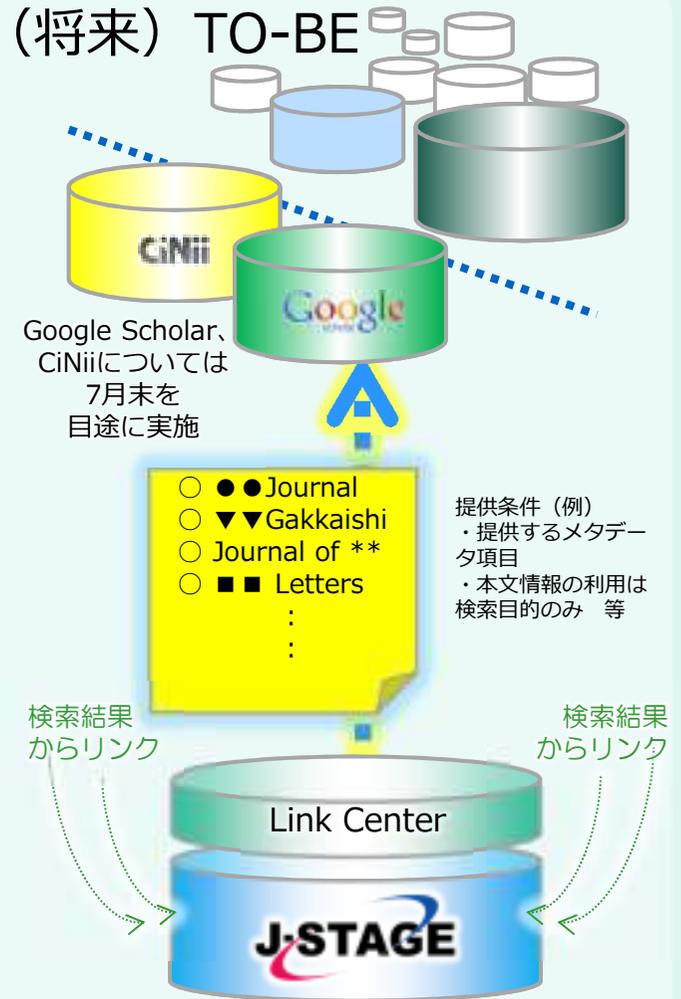
目次HTMLによる連携の運用改善（準備中）

（現行）AS-IS



非常に細やかな連携・非連携の設定が可能な反面、将来的な連携先の増加に対応しきれない懸念。また、連携の複雑さからJ-STAGEのサイトランク等に影響したり、J-STAGE以外のルートで、ジャーナルデータを取得する連携先が出る可能性も。

（将来）TO-BE



連携先の管理を一元化を準備中。リンク情報は、J-STAGEから品質のそろったデータを一元的に連携先へ提供



[Google Web Search] J-STAGEの対応

- 検索連携は、学協会様のご希望(～H22：オプトイン、H22～：オプトアウト)にもとづいて実施
- ▼
- より正確なリンクを実現するため、J-STAGE本体のクローリングは禁止し、Google専用の「目次HTML」を用意しクローリングさせる手法で連携
- ▼
- しかし、Google ScholarとGoogle Web Searchの仕様が画然となるにつれ、目次HTMLの結果がGoogle検索(Google Web Search検索)の結果に反映されにくくなる状況が発生
- ▼
- J-STAGEでは、現状のJ-STAGE本体のクローリングを解禁する方向で調整
- ▼
- 原則として、Google Web SearchによるJ-STAGE上のすべてのコンテンツのクローリングを禁止しません（認証設定されクローリングできない本文を除きます）



オープンアクセスへの対応（現状）

ジャーナルタイトル一覧画面



J-STAGEで保持しているジャーナル公開ポリシーは、記事公開時のデフォルト認証設定のみ。（デフォルト記事設定がフリーの場合、フリー誌アイコンを表示）

※J-STAGE2ではフリー誌アイコンは実際にすべての記事に認証が設定されていないことを判定して表示されていたが、J-STAGE3でライセンス（非常に複雑な認証設定を行うことのできる概念）が導入されたこととともない、システムの判定が困難になったため、デフォルト設定状況を表示する形式に変更された。



「フリー誌」アイコン
※認証のデフォルト設定を表示



記事ベースでは、「Open Access」アイコンの表示が可能。ただし、単にアイコンの表示/非表示を制御するのみで、運用は各学協会様に一任

「Open Access」アイコン
記事毎に表示

記事書誌画面



オープンアクセスへの対応（方針）

- JSTは、イノベーションを駆動する科学技術・学術情報のオープンな流通を強く推奨
 - 「オープンアクセスに関するJSTの方針」（平成25年4月）
http://www.jst.go.jp/pr/intro/pdf/policy_openaccess.pdf
 - JSTのファンディングによる研究成果については、**OAを義務化へ**（2014年3月13日 JST理事長）
 - 「誰もが研究成果を利用できるOAの環境確保は極めて重要。（中略）**文科省ではOA環境の充実の観点から科学研究費の補助金やJSTの学協会の取り組みの支援を行うこと**、NIIの各大学における取組に対する支援などの促進策に取り組んでいきたい。文科省は研究者の一層の理解を得るところ含めて、**一層のOAの促進に今後とも積極的に取り組んでいきたい。**」（2014年5月13日参議院 文部科学大臣答弁要約：<http://www.webtv.sangiin.go.jp/webtv/index.php>）
 - J-STAGEは、各利用学協会様の積極的な参画により、本文情報をフリーで閲覧できる大規模電子ジャーナルプラットフォームとして国際的にも認知

J-STAGEは、オープンアクセス・オープンサイエンスのインフラへ

オープンアクセスへの対応（方針）

- フリー公開の推奨
 - 現在J-STAGE新規誌においては、本文をフリー公開するジャーナルを優先的に採択中。認証等を利用する場合であっても、12ヶ月程度までを強く推奨

既ご利用誌においても、フリー公開範囲拡大のご検討をお願い申し上げます。

～しかし、フリーアクセス = オープンアクセス（OA）ではない～

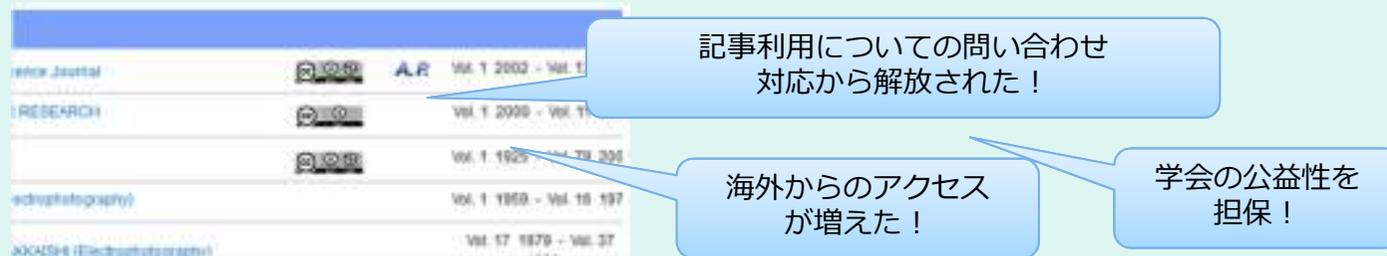
オープンアクセスの定義(平成24年7月 『有川委員会』 ※)

- 学術情報をインターネットから無料で入手でき、**技術的・法的にできるだけ制約がなくアクセスできるようにすること**
(※平成24年7月 文部科学省科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会(有川委員会)「学術情報の国際発信・流通強化に向けた基盤整備の充実について」より)

J-STAGEにおいても、コンテンツの流通促進のためにはさらに踏み込んだ対応が必要

オープンアクセスへの対応（方針）

- フリー公開コンテンツのポリシー策定・浸透に向けて
 - J-STAGEでは、約9割のジャーナルがフリー公開誌
 - しかし、フリージャーナルであっても、二次利用の扱い等、明確な公開ポリシーを定めている学協会様は相対的に少数の状況
 - 内外の閲覧者から、記事二次利用に係る明快な基準についての問い合わせが増加中（J-STAGEの使い勝手＝サービス品質にも直結）
 - フリーコンテンツについて、Creative Commonsライセンスに準拠するジャーナルプラットフォームが増加中
- **J-STAGE上のフリー公開コンテンツについて、Creative Commonsライセンス等を利用した、二次利用の扱いを含むポリシー明確化を強く推奨することを準備中。**当該ポリシーについては、学協会様において使い勝手のよい運用ドキュメントなどをまとめた「オープンアクセス・スタートキット（仮称）」を配布すること等を検討。



The screenshot shows a list of journals on the J-STAGE platform. Three callout boxes highlight key features:

- 記事利用についての問い合わせ対応から解放された!** (Released from inquiries about article usage!)
- 海外からのアクセスが増えた!** (Increased access from overseas!)
- 学会の公益性を担保!** (Guaranteeing the public interest of the association!)

※機能拡張として、ジャーナルごとに各記事にCCライセンス表示を行える機能を開発中（今夏リリース予定）

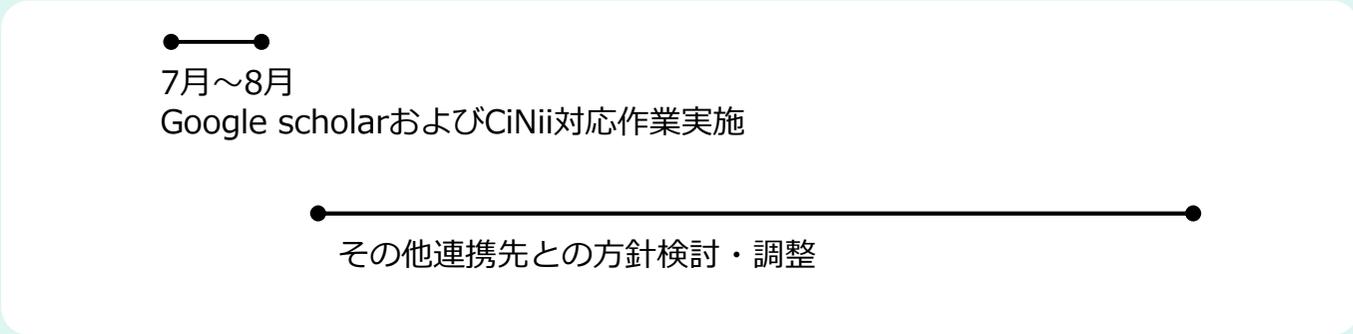


スケジュール（予定）



Google Scholar等対応

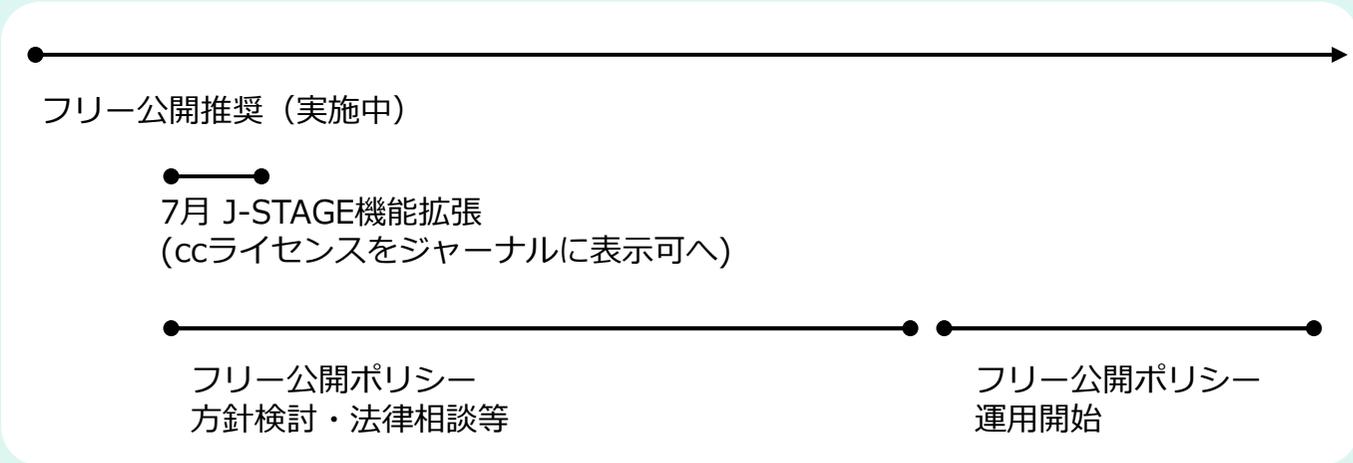
(連携用メタデータ
(目次HTML))



検索エンジン対応
(robots.txt)



OA対応



J-STAGEにおける今後のポリシーに関わる重要な観点も含まれますので、どうぞ皆様のご意見をお寄せください。



**J-STAGEは、今後も掲載論文コンテンツの
内外への発信・流通を強化・促進するための
各種施策を推進してまいります。
皆様のご支援・ご協力のほど
何卒よろしくお願い申し上げます。**

contact@jstage.jst.go.jp



訂正履歴:

- 2014.6.16 目次HTMLによる連携方針の説明スライドであることを明確にするため、以下のとおり修正しました。
スライド#7⇔#8を入れ替えました。
入れ替え後スライド#7のタイトルを目次HTMLによる連携の運用改善(準備中)